

さくら第476号

令和元年8月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7: TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

## 『どっこいしょ…』

気になることがあります。教室に入り、イスに座ったあと、立ち上がる時に「どっこいしょ」と言う人が多くいます。お年寄りだとよく耳にする言葉ですが、小学1年生が「どっこいしょ」と言って立ち上がると、何か変な気がします。

今からこのような言葉を使っていると、この先どうなるのか心配になります。

さて、この「どっこいしょ」という言葉はどこからきたのでしょうか。気になりました。

日本には山岳信仰が古来からあり、近くでは白山、高野山、そして富士山などが特に有名であり、山へ登ることにより心身を清め、雑念にとらわれることのない自分を磨くという思いがあり、たとえば西国巡礼として88ヶ所の札所にお参りするという修行もあります。

そして山道を歩く時に、「六根清浄・ろっこんしょうじょう」という言葉を唱えながら歩くのがよいといえます。

六根とは、仏教用語で、人間にそなわった六つの認識のことで、眼(視覚)、耳(聴覚)、鼻(嗅覚)、舌(味覚)、身(触覚)、意(意識)のことです。

正しい行いを続けて行くためには、心を清らかにすることが大事です。そのためには、悪い事を見ない、聞かない、嗅がない、触れない、感じないことが大切であるから、山ごもりなどをして、身を清めるといいます。このような体験をする人は「六根清浄」を口々に唱えながら、山に入っていくといえます。

そして山道を歩く人々は疲れてくると「六根清浄」と言っていたのが、だんだん短くなり「どっこいしょ」と、まわりの人たちには聞こえるように変化していったといえます。

ちがう説もあります。「何処へ」が、「どっこい」となり、「どっこいしょ」になったといえます。「どこへ」は相手の発言や行動をさえぎる時に使われる感動詞であり、座る時に、「どっこいしょ」座ろうかなというようなことです。

こんな説もあるそうです。はるか遠い昔、イスラエル人が日本にやってきた時に使っていたヘブライ語が語源であり、ヘブライ語で押す、退ける、排除するということを「ドケ」と発音したそうです。このドケが「どっこいしょ」の「どっこ」にあたり、やがて「どっこいしょ」に変化したといえます。

♪ヤーレン・ソーラン♪から始まるソーラン節のなかの「囃子詞・はやしことば」として使われる「ドッコイショ」も、このヘブライ語が語源ともいうそうです。言葉は時代とともに変化していくことが多くあります。

シャウト効果というものがあります。シャウトとは、叫ぶ、大きな声を出すという意味です。人間はふだんの生活のなかでは80%から90%の力で動き、無意識におさえているといえます。100%の力を出し続けていると体がもたないからです。

ところが、強い力を必要とする時には、声を大きく出すとふだんより大きな力を引き出すことができます。スポーツを見ていると、ここだという時に大きな声を出すことがよくあります。

座っていたのが立ち上がる時に「どっこいしょ」と声を出すと、身体に力がわき、楽に立てるのでしょう。それにしても、小学生の低学年から「どっこいしょ」では、この先、どんな言葉を使うのでしょうか。「よっこいしょ」の語源は「六根清浄」といいます。お年寄りが使うのは仏様になる日が近づくからともいいます。日々、どんな言葉を使うのかで行動が変わります。元気いっぱい、力いっぱい前進しよう。